

科目名	自然と地理	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Physical Geography	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	いちかわ たかし	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	市川 聖	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	自然地理学				
到達目標	天気などの気候環境、山や平野などの地形環境、森林や動物などの生物環境等、主に自然環境に関する基礎知識をまず学ぶ。そして、これらが人間生活に与える影響を分析できるようにする。				
授業概要	1. 地理学の知識を応用して、諸事象を分析する資質を養う。 2. 地理学的な分析手法を習得する。 3. 人間と自然が共生する必要性を理解する。				
授業計画					
第1回	ガイダンス	自然地理学とは何か・秋田の自然を考える			
第2回	自然地理1 (環境問題・砂漠化)	地球規模の環境問題・世界のさまざまな地形			
第3回	自然地理2 (生物の地理学)	森林の土壌・森林政策			
第4回	自然地理3 (世界の大地形と気候)	世界の大地形と気候の分析			
第5回	自然地理4 (山と河川)	河谷と河川的作用・斜面地形と地形災害			
第6回	自然地理5 (平野と海岸、雨と風)	平野の地形と海岸の景観・環境変化			
第7回	自然地理6 (水の循環と水資源)	水文学・湖の景観と環境変化			
第8回	自然地理7 (火山と自然災害)	日本の火山 地震災害・山地災害・気候災害			
第9回	火山地形と地震の関係性	地震の種類と自然災害の事例・津波			
第10回	地域調査の方法1	地形図の読図1			
第11回	農業と地理	農業の自然地理・土壌の種類			
第12回	水文学の応用と気候	水循環の計算			
第13回	地域調査の方法2	地形図の読図2			
第14回	日本の自然地理	日本の自然地形の課題・農村社会・日本の気候			
第15回	まとめ	自然地理学のまとめ・秋田の自然と地理			
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 授業開始前に、前回講義内容の確認テストを行うこともあります。前回講義の復習をしっかりと行ってください。(1.5時間程度) 3. 日常的に地理的(地形、風土など)な観察を行うように心がけてください。 4. 地域社会の課題について新聞やニュースを通して考えるように心がけてください。				
履修条件 受講のルール	なし				
テキスト	特にありません。講義中に資料を配布します。				
参考文献・資料	講義中に紹介しますが、以下の文献では自然地理の基礎を学ぶことができます。 帝国書院『新詳高等地理』				

	<p>松原旦子「自然地理学」慶應義塾大学出版会(2008)</p> <p>杉谷隆・平井幸弘・松本淳「風景のなかの自然地理」古今書院(2005)</p> <p>高橋日出男・小泉武栄「自然地理学概論」朝倉書店(2008)</p> <p>John A.Matthews・David T.Herbert (森島 済・赤坂 郁美・羽田 麻美訳)『地理学のすすめ』丸善出版(2015)</p>
成績評価の方法	<p>総合評価【定期試験(60%)、レポート・小テスト(40%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行うこともあります。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	講義時間前後
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>日常的に「考える」という作業を心がけてください。知識を暗記するだけではなく、現代の社会で実際に知識を応用することを意識してください。とくに「自然と地理」では、自然現象についても解説します。日常生活の中での自然を考える機会にしてください。</p>